

育ちと学びをつなぐ幼保小の架け橋プログラムの推進に向けて

毎年、保育体験や授業参観、子ども同士での交流をしています。
十分ではありませんか？



組織と人がつながったら、次は教育をつなぎましょう。
子どもの資質・能力について話し合うことを通して、お互いの教育内容や子どもの姿を知ることができます。
自園・自校の教育を振り返り、改善に生かしていくためにも、「幼保小の架け橋プログラム」を進めていきましょう。

組織をつなぐ

人をつなぐ

教育をつなぐ

改善のポイント

鳥取県幼保小連携リーフレット

	これまで	これから
目的	小学校への順応	学びの連続
内容	交流活動	カリキュラム編成
期間	数か月	2年
実施単位	施設単位	地域単位

R6年度幼児教育の理解・発展推進事業(中央協議会)資料

【幼保小の架け橋プログラム】とは5歳から小1の2年間を「架け橋期」と位置づけ、すべての子どもに、学びや生活の基盤を保障するため、自治体のリーダーシップのもと、カリキュラム開発会議等、体制を整え、架け橋期にふさわしいカリキュラムを作成・評価することで、教育の充実・改善を目指します。



詳しくは、文部科学省のホームページへ！

幼保小の架け橋プログラム 検索

幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版）

令和4年3月31日
文部科学省

教育をつなぐためには、幼児教育・小学校教育の相互理解が欠かせません。
それぞれの教育内容や子どもの姿について対話することが大切です。

実践のポイント

- 今、実施している交流・見学・体験について、事前事後の対話の機会を持ちましょう。
- 園と学校で期待する子どもの姿(めざす子どもの姿)を共有しましょう。
- 対話を通じて子どもたちのことを共に語り合い、保育・教育の改善につなげていきましょう。
- 幼保小合同研修会を実施し、「幼保小の架け橋プログラム」について学びましょう。

米子市の実践例 (美保中学校区の取組)

① 合同研修会

② 事前打ち合わせ会
☆保育のねらいを共有する③ 公開保育
・保育体験④ 事後協議
☆子どもの姿を付箋に書いて整理・分析

☆幼保小接続アドバイザーからの「資質・能力、主体的・対話的で深い学びのつながり」についての講演



対話の内容は…



- ☆子どもの姿から、校区の期待する子どもの姿(めざす子どもの姿)について協議する。
- ☆公開保育で見られた子どもの姿をふまえ、ねらいにせまるための効果的な環境の構成や援助について協議する。
- ☆自身の保育、教育の改善につながる環境構成や援助(指導)について協議する。 等

第2回幼保小連携・接続推進研修会(オンライン開催)

日 時: 令和7年2月6日(木)

午後1時15分から午後3時30分まで

内 容: 実践発表(鳥取市・三朝町)

指導助言・講義

北海道教育大学教職大学院

渋谷 一典 教授

ぜひ、参加をご検討ください!!

この研修を校区の園・小学校・義務教育学校等の合同研修会として同じ場で一緒に受講し、今後の取組について話し合うとより効果的です。参加申し込みは、12月10日付で小中学校課より通知しております開催要項等を御確認ください。